

第1回 並松地区堤防景観検討会 議事概要

日時：平成31年2月4日（月）10:00～11:30

場所：綾部市市民センター 多目的ホール

【出席者（順不同）】

明石工業高等専門学校 教授 神田委員（座長）

京都市立芸術大学 教授 藤本委員

京都府中丹東土木事務所長 木村委員

綾部市副市長 山崎委員

並松地区代表 四方源太郎委員

並松地区代表 高崎委員

味方地区代表 本田委員

味方地区代表 四方諭委員

議事1：規約（案）（資料-1）

規約（案）について事務局から説明を行い、了承された。

第5条第5項の「座会」は「検討会」に修正することとなった。

議事2：座長の選出

明石工業高等専門学校教授 神田委員が座長に選出された。

座長職務の代行として京都市立芸術大学 教授 藤本委員が指名された。

議事3：由良川水系河川整備計画での並松地区について（資料-2）

事務局より由良川河川整備計画での並松地区の位置付けや現在の由良川の整備の考え方などについて説明を行った。

主な意見は以下のとおり。

- ・ 堤防整備後には内水の課題がある。堤防整備の設計時には、事前に住民に説明して欲しい。

議事4：並松地区の景観（歴史、概要）（資料-3）【参考資料：堤防の景観事例集】

由良地区の景観（歴史風景、特徴等）について事務局から説明を行った。

議事5：意見交換

河川整備計画における由良川や並松地区の景観に関して、意見交換を行った。

主な内容は以下のとおり。

- ・ 船着き場跡は、現在使用されていないが、以前は貸しポート小屋があり、遊船、貸しポート等の利用があった。
- ・ 当時の松並木も桜並木も両方に趣がある。松並木を復活させるのか、桜並木を保存するのか等、将来の街づくりの観点も必要と考えられるため地元で検討していく必要がある。
- ・ 綾部大橋の塗装色について、景観的にはもっと鮮やかではない穏やかな青系がよい。府道の緑色のラインももっと渋く鮮やかでない色が良い。
- ・ 綾部大橋は、地域では橋は青色のイメージが強いため、色はそのままが良いかと思っている。
- ・ 綾部大橋の色に関しては、既存の色を塗り替えることは難しいため、恐らく当時から青系の塗装色であったと思われる。次に塗り替える時は、今回のご意見を参考にさせて頂きたい。
- ・ 水辺に降りられる場所は非常に重要だと思う。堤防設計時には、船着き場の歴史検証と共に親水空間を踏まえ検討してほしい。
- ・ 築堤整備については可能な限り早急を実施して頂きたい。
- ・ 堤体本体の景観と共に、川自体の景観（土砂の堆積や草木）についても検討が必要ではないか。
- ・ 並松地区の治水対策を景観事業という付加価値をつけ、事業を実施していただけることは綾部市としては大変ありがたい。市としても早期に防災対策をお願いしたいが、予算が必要な話であるため、府道を管理する京都府とも連携して事業を進めていただきたい。
- ・ 府道に関しては、道路に近接して人家があること、将来的に当該箇所はバイパス計画がある。

議事 6：今後のスケジュール

事務局から今後のスケジュールについて説明を行った。

- 第2回の検討会は3月から5月の間に開催予定であり、事務局よりコンセプト案を提案し、意見交換を実施する予定。
- 第3回は来年度の上半期に開催予定であり、景観の方向性について成果の取りまとめを実施する予定。

以上